

そばにあつた「ありがとう」

横須賀市立馬堀中学校 三年 田子 英梨佳

小3の頃、祖母が家にやってきました。まだ、症状はあまり出ていませんが「認知症」という病名だけを知っていました。どこにもいる普通の祖母でした。しかし、日が過ぎていく毎に症状は悪化していきました。物忘れが激しくなり、ついには家族の名前も分からなくなってしまうました。私はとても悲しかったです。

「認知症」は段階が決まっていて、高い段階になるごとに薬は多くなります。そして、薬は病気の進行を遅くすることしかできません。毎月、病院に行く時は父と母が連れて行きます。「認知症」は当たり前のことが当たり前に出来なくなる病気だと分かりました。学校の学年目標が「自分で考え行動に移せる学年にしよう」というのを思い出しました。これは凄く大切なことなんだと改めて感じました。

六月に「中学生 認知症サポーター 養成講座」の講演会がありました。その中で特に印象に残った言葉は「認知症の本人に自覚が

ないのは大きな間違い」です。生活している中でイライラする場面もこう思えば過ぎしていきます。一番苦しんでいるのは本人だと分かったからです。だからこそ、家族で支え合っていかななくてはならないと思いました。

ある日、祖母が迷子になってしまいました。そうしたら、近所の方が見つけてくれました。地域の支えがあり今の家族があると感じた出来事でした。地域の輪がもっと大きく広がればいいなと思いました。

夏休みに入って祖母の世話を多く見るようになりました。朝起きたら、祖母を着替えさせ、ご飯を食べさせて、デイ・サービスに送って、家事を行って。見ていて本当に大変だなと思いました。お手伝いで食事の介助をするとき、まず小さく切ってスプーンですくって、口の中に入れます。ご飯を食べることがこんなにも大変な事だったと分かりました。母が出かける時は私がお留守番もしなくてはいけません。介護生活は大変だから疲れる時もあるかもしれないと思いました。そんなときに母が「おばあちゃんがいるおかげでみんなに会えたんだよ。」と、言いました。私は母が凄いいました。母が言った通り、祖母がいるおかげで私が生きている。「ありがとう。」

と私は思いました。

母に誘われて車で行った先は、ショートステイ先でした。中に入るとたくさんのお年寄りの方がいました。祖母は大きな机で何人かと座っていました。よく見ると、みんな笑顔でした。笑顔で話をしているのを見たら、優しい気持ちになりました。笑顔で接すれば、相手も笑顔になれると分かりました。

現在、「高齢者問題」がありますが、身近にある問題を気付くには普段からの交流が大切だと思います。地域がお互い支えあっている地域が大きくなっていくと思います。

「支える」というのはとても難しい事だと感じます。でも、「支える」事で幸せになれる人がいるなら私はいいと思います。介護を目前で見えてきて、小さな事でも感謝しなくてはいけないと分かりました。生活していけるのは父が一生懸命働いてくれているから。生活していく中で、家庭と介護を快よく両立してくれる母。「支える」と誰かが笑顔になれます。「支える」には強い心や優しい心が必要です。私はこれからも弟達の面倒もみて、介護を手伝いたいと思います。

ここまで生きてこられたのも、支えてくれた家族がいたから。側

で支えてくれているからこそ気付かない時もあります。小さな事でも「ありがとうございます」。そして家族にも「ありがとうございます。」とこれからもずっと言えるようにしたいと思います。